

① 藤原和博 著

『はじめて哲学する本』

(ディスカヴァー・トゥエンティワン)

本書はリクルートで長年サラリーマンとして働き、退職後中学校の校長先生に転職した、ちょっと異なる経歴をお持ちの方が書かれた哲学書です。哲学といっても難しいことが一杯書かれたものではなく、「生まれること」、「死ぬこと」、「生きること」など、人生で誰もが経験することについて哲学されています。おじいちゃんはなぜ演歌が好きなのかをはっきりと理解させてくれる一冊です。哲学ってほんとうは楽しいものだったんですね。

100-Fuj (N.K.)

③ 千葉幹夫 編著

『英語で楽しむ!日本昔ばなし=

Let's read in English! : Japanese folk tales』

(ナツメ社)

『鶴の恩返し』、『桃太郎』、『おむすびころり』、『ねずみの嫁入り』など私達が子どもの頃から慣れ親しんできた日本の昔話17話が英訳と共に掲載されています。各民話にはそれらの民話に登場してくる鶴や鬼、登場人物などについてや「餅が丸いのはなぜ?」、「角隠しから角は出ない!」、「地藏と道祖神」、「すすめのすすは?」、「お寺のはじまり」など、日本の慣習や由来についての解説が、『ものしり小話』として随所に散りばめられています。英語の表現方法を磨き、日本文化も勉強できる一石二鳥の本です。

837.7-Chi (S. S.)



② デイビッド・セイン、佐藤淳子 著

『アメリカ大統領英語名言集:

歴史を動かす、世界を変える、人々の心に響く』

(Jリサーチ出版)

アメリカでは中間選挙が終わりましたが、オバマ大統領就任の際の演説は、まだ記憶に新しいのではないのでしょうか。本書では初代大統領のジョージ・ワシントンから、この第44代大統領オバマ氏までの演説の中より選ばれた名言集です。各大統領のページには着任期間や、所属党名、生い立ち、演説の特徴などが添えられています。名言集は原文の他に「NOTES (語注)」、「日本語訳」、「言葉の背景」、「英語理解のヒント」から構成されています。各章に付された年表を参照し、時代背景を思い浮かべながら読んでみてはいかがでしょうか。

837.5 (T. F.)

④ 山口諤司 著

『ん:日本語最後の謎に挑む』

(新潮社)

本書では、五十音の「ん」という文字について、またその音韻について興味深い説明がなされています。万葉集の時代には万葉仮名で「ん」を書き表す方法がなかったけれども、平安時代に入って経典をサンスクリット語の原音で読む必要性から漢字に発音を表す印としての「ん」、「ン」が誕生したということをはじめ、平安文学では「ん」を表記するのが下品とされたことや、上田秋成と本居宣長が「ん」について国語学史上最大と言われる激しい論争を行ったことなど、好奇心を掻き立てられる内容です。日本語の音韻について関心のある人には是非ともお勧めしたい一冊です。

811.04-Yam (F.O.)